

エネルギー・原発問題委員会開催

第11回 エネルギー・原発問題委員会

2024年2月22日(木) 14:00～16:00 会場(TKPガーデンシティPREMIUM東京駅丸の内中央)&オンライン開催

2月22日(木)第11回 エネルギー・原発問題委員会を開催し、今年度の活動報告および基本的考えの変更、来年度の活動計画について報告・議論を行いました。

今年度の活動報告では、第7次エネルギー基本計画に向けた活動の成果として、エネルギー政策における「国民の不在」の状況を課題認識できたこと、一方で意見表明の提出に至らなかった点について報告しました。また昨今の世界情勢の変化を鑑み、今後日本におけるエネルギーの安定供給を目指すため、委員会の基本的考え方の変更を提案し、承認されました。

24年度の活動計画は、今後示されるエネルギー政策の是非を判断し、より良い施策の提案に繋げるため、短期(足元)の活動として①エネルギー政策の振り返りと、ギャップの検証を挙げました。また、23年度の課題認識として挙げられた、政策における国民不在の状況を改善するため、中長期の活動として、政府に対し政策における②国民関与の実現として、国民の意見を反映させる場の創設にむけた具体的施策の提案に向けた活動を挙げ、参加の皆様からご意見を賜りました。

第7次エネルギー基本計画を見据えた活動②	10
<p>成果:これまでの個別具体策(地産地消・再エネ拡大)にとられず、「国民的議論」の実現の基礎となる「国民の不在」を課題認識できた</p> <p>不足:「国民関与」の具体的方法の深慮に至らなかった 持ち込みの時期・相手の選定に難航</p> <p>【意見表明】の準備 野心的目標の達成と電力安定供給の実現のためには、より一層の官民一体となった取り組みが必要であると考え、「エネルギー政策への国民の関与」を盛り込むことを要望</p> <p>①エネルギー政策の選択肢を提示して、国民に責任と役割を持たせる ②いかなるエネルギー政策を推進するにしても、原子力発電のバックエンド問題は早期に道筋をつける</p>	

▲エネルギー・原発問題委員会23年度活動の成果と不足点

委員会の基本的な考え方 ★議論ポイント★	33
<p>【今までの基本的な考え方】</p> <p>(1) 多くの未解決課題を抱える原発を問題視 (2) 中長期的に原発に頼らない電力供給社会実現を見据え、再エネ拡大を推進</p> <p>【課題認識】</p> <p>① 原発自体を問題視しているわけではない ② 再エネと原発の二軸だけでは今後の安定供給への対策が不足する ③ 原発だけでなく電力全体の安定供給が最優先である 以上3点から基本的な考え方の変更が必要である</p> <p>【今後の基本的な考え方】</p> <p>(1) 国内外の変化によらず、安定した電力供給を実現するため、電力の分散を目指す (2) 原発が抱える重大な未解決問題に対し、早急に道筋をつけるべき</p>	

▲基本的な考え方の変更 委員会資料より

【出席者のご意見(一部抜粋)】

- 基本的な考え方の変更は、現実的な30年の目標を見据えたときに、一番大事な安定供給を目指していくという考え方は、非常に良いのではと感じました。
- 原発自体を問題視しているわけではないという課題認識のもとに、基本的考え方を変更するのであれば、委員会名についても変更を検討してみてもどうか
- 基本的考え方の変更としては良いのではないかと。また今後のエネルギー安定供給議論の上で再エネと原発だけでは不足するという点も賛同する。
- 国策への意識喚起ではなく、国民の現在と次世代の日常生活の目線で問題を認識してもらい、その解決策として今の国の政策が妥当なのかを考えてもらうのがいいと思う。

決議事項

委員会の基本的考え方を以下に変更

- 1 国内外の変化によらず安定した電力供給を実現するため、電力の分散を目指す
- 2 原発が抱える重大な未解決問題に対し、早急に道筋をつけるべき